

1 単元について

対 象 学 年	小学校 第4学年
学 習 指 導 要 領	第4学年の内容 A(3)
単 元 名	「わり算(2)」(全14時間)
単 元 目 標	<p>既習の除法をもとに、除数が2位数の計算の仕方を進んで考え出そうとする。 (算数への関心・意欲・態度)</p> <p>既習の除法をもとに、除数が2位数の計算の仕方考えることができる。 (数学的な考え方)</p> <p>何十で割る暗算や2位数で割る筆算ができる。 (数量や図形についての表現・処理)</p> <p>除数が2位数の場合にも除法ができることを知り、その計算の仕方が分かり、除数と被除数に同じ数をかけても、同じ数で割っても商は変わらないという除法に関して成り立つ性質が分かる。 (数量や図形についての知識・理解)</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 単元指導計画作成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して次の5点に留意する。 単元を通して「10がいくつ」の考えを大切にする。 既習を基に考えさせるために、既習内容との相違点をはっきりする。 既習の考え方や方法を課題解決の見通しとしてもたせる。 筆算の手順が数の操作だけに終わらないように、計算の筋道を明らかにする。 学習内容の定着をはかるために、チェック項目を明確にしたペア学習を位置付ける。また、基本問題や発展問題の内容を工夫したり、フラッシュカードやカルタ取り等の学習方法を工夫したりする。 <p>単位時間の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つかむ段階で、既習の「10がいくつ」の商の見当づけにより、商が2位数になりそうだという見通しをもたせる。そして、商が2位数になる時の商の見つけ方を考えるという課題をもたせる。その際、わり算(1)で学習した商が2位数になった時の商の見つけ方を掲示物で示し、参考にさせる。 ・追究する段階で、形式的に筆算をしている児童には商が十の位に立つわけをはっきりさせる指導・援助をし、「10が55個あり、それを24で分けるから十の位に商が立つ」ことに気付かせていく。また、根拠がはっきりしている児童には、商が1位数、2位数になる時のきまり見つけをさせ、考えを深めさせる。 ・まとめの段階で、商が1位数か2位数かを考えさせるためのフラッシュカードによる学習や、考え方をはっきりさせるためのペア学習を位置付け、定着を図る。
参 考 資 料	<p>資料1：単元末の評価問題</p> <p>資料2：評価問題構成表</p>

2 単元の評価規準

	ア 算数への関心・意欲・態度	イ 数学的な考え方	ウ 数量や図形についての表現・処理	エ 数量や図形についての知識・理解
内容のごまとのま評り価規準	整数，小数や分数の意味と表し方，それらの計算にかかわる知識や技能の有用さ及びそれらの性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気付き，進んで生活に生かそうとする。	整数，小数や分数の意味や表し方，及びそれらの計算の意味や計算の仕方にかかわる算数的活動を通して，数学的な考え方の基礎を身に付け，事象について見通しをもち筋道を立てて考える。	目的に応じて概数を用いることができるとともに，整数の除法の計算が確実にできる。端数部分の大きさなどを小数や分数で表すことや，小数の加法及び減法の計算をすることができ，それらを目的に応じて適切に用いることができる。	整数，小数や分数についての感覚を豊かにし，十進位取り記数法や整数の除法についての理解を深めるとともに，小数や分数の意味と表し方，小数の加法及び減法の計算の意味について理解している。
単元の評価規準	2 位数で割る除法の計算の仕方を進んで身に付けようとする。 除法の性質を進んで計算に生かそうとする。	除数が2 位数の除法の計算の仕方を考えることができる。 除法に関して成り立つ性質を用いて効率的に計算するための工夫を考えることができる。	簡単な除法について暗算ができる。 除数が2 位数の除法計算ができる。 除数の性質を使って計算できる。	除数が2 位数の場合にも除法ができることを理解している。 除数が2 位数の筆算の仕方を理解している。 除法の性質を理解している。
学習活動における具体の評価規準	既習の除法を基に，除数が2 位数の計算の仕方を進んで身に付けようとする。 除数の性質を進んで計算に生かそうとする。	既習の除法を基に，除数が2 位数の計算の仕方を考えることができる。 除法に関して成り立つ性質を用いて効率的に大きな数の計算をするための工夫を考えることができる。	除数が何十で商が1 位数の暗算ができる。 見積もりによる仮商を立てたり，修正したりして，除数が2 位数の筆算ができる。 除数と被除数の両方に同じ数をかけても，同じ数で割っても商は変わらないという除法の性質を使って計算することができる。 けた数の大きい計算が，電卓を使ってできる。	除数が2 位数の除法について，それがどのような場合でどのように用いられるかを理解している。 除数が2 位数の筆算の仕方を理解している。 除数と被除数の両方に同じ数をかけても，同じ数で割っても，商は変わらないという除法の性質を理解している。

3 指導と評価の計画（全14時間）

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	<p>既習の除法を想起することで、本単元は除数が2位数の除法について学習をするという課題をもつ。さらに、(何十)÷(何十)で商が1位数になる計算について、具体物や図を用い、既習の「10がいくつ」の考え方を使って計算の仕方を見つければよいことが分かり、暗算することができる。</p>	<p>お菓子屋さんで、除法の問題を理解する。 既習の除法を参考にし、除数が2位数の時にも除法ができることを理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>わる数が2けたのわり算について、その計算の仕方を調べよう。</p> </div> <p>既習内容やお金の模型を参考にし、10がいくつで考えるとよかったことを想起し、具体物や図を用いて計算の仕方を考える。 考えを発表し合い、10がいくつの考えを使うことで除数が2位数の場合でも、商の見当をつけることができることをまとめる。 まとめた考え方を使い、暗算で計算する練習をフラッシュカードやカルタゲームで行う。</p>	<p><エ - > 除数が2位数の除法について、それがどのような場合でどのように用いられるかを理解する。</p> <p><ウ - > 除数が何十で商が1位数の暗算ができる。</p>	<p>発言 ・既習の問題や問題場面をもとに、除法になることに気づき、正しく立式している。</p> <p>フラッシュカード、カルタゲームの学習活動 ・10がいくつの考えを使って、正しく計算している。</p>	<p>問題場面を理解しやすいように、お菓子屋さんを取り上げる。そして、既習内容で計算できる問題をはじめに取り上げ、除法になることが理解できるようにする。</p> <p>10がいくつの考えは、単元通して大切にしていくために、しっかり押さえる。フラッシュカードは、解き方を確認しながら進め、理解を深める。さらに、カルタゲームを取り上げ、意欲の持続をはかる。</p>
2	<p>(何百何十)÷(何十)で商が1位数になる除法について、前時の「10がいくつ」の考え方と具体物や図を用いて計算の仕方を見つけ、暗算することができる。</p>	<p>問題を理解して立式し、前時の問題との違い(被除数が3位数になっていること)を見つけ、課題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>10がいくつの考えを使って商の見当をつけ、わられる数が3けたの暗算の仕方を考えよう。</p> </div> <p>具体物や図、10がいくつの考えを使って、商の見当をつけて、計算の仕方を考える。 考えを発表し合い、被除数が3位数の場合も、既習の考え「10がいくつ」を用いることで、暗</p>			<p>既習内容を掲示しておき、考えの見通しをもたせる。</p>

		<p>算できることを理解する。 まとめた考え方を使い、暗算で計算する練習をフラッシュカードやペア学習で行う。</p>	<p><ウ - > 除数が何十で商が1位数の暗算ができる。</p>	<p>フラッシュカード、カルタゲームの学習活動 ・10がいくつの考えを使って、正しく計算している。</p>	<p>フラッシュカードは、解き方を確認しながら進め、理解を深める。 さらに、カルタゲームを取り上げ、意欲の持続をはかる。</p>
3	<p>2位数÷2位数の除法について、96を90,32を30とみることによって前時までの学習を使って商の見当をつけられることを見つけ、筆算の仕方を考えることができる。</p>	<p>問題を理解し、立式をする。 前時との違いを見つけ、$90 \div 30 = 3$という既習の計算の仕方と比較して解き方を話し合い、課題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>$96 \div 32$の商の求め方を考えよう。</p> </div> <p>図や式を使って商の求め方を考える。 見つけた方法を発表し合い、96を90,32を30とみて計算した商の3が、正しい商になっていることを見つけ、はじめに何十÷何十にして商の見当をつければよいことをまとめる。 みつけたことと、筆算における商の立つ位置、手順をつなげて理解する。</p> <p>類題に取り組む。 ペアで練習問題に取り組む、さらにペアで問題づくりに取り組む。</p>	<p><イ - > 既習の除法を基に、除数が2位数の計算の仕方を考えることができる。</p>	<p>ノート、発言 ・図を用いたり、$90 \div 30 = 3$の計算を使ったりして、商の求め方を考え、何十÷何十にして商の見当をたてられることをみつけている。</p>	<p>$90 \div 30 = 3$を図で確認することで、課題解決の見通しをもたせる。</p> <p>図をもとに商を見つけた児童には、$90 \div 30 = 3$を生かして計算することができないかを考えさせる。 数の操作にならないように、筆算の手順と図をつなげさせる。</p>
4	<p>3位数÷2位数の除法について、前時の計算の仕方を基に、筆算の仕方を考え、計算することができる。</p>	<p>問題を理解し、立式をする。 前時との違いを見つけ、前時の商の求め方を使うとできそうだとしたことと、商の立つ位置の見通しをもち、課題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>商の見当づけを使って、$175 \div 35$を筆算で計算しよう。</p> </div> <p>$170 \div 30$と考えて商の見当をつけ、前時の学習を基に、筆算</p>			<p>前時の商の見当づけと筆算により商を求めることができそうだという見通しをもたせるために、前時との相違点をはっきりさせる。</p>

		<p>で計算する。</p> <p>考えを発表し合い，商の位置や筆算の手順を図とつなげて確認する。</p> <p>類題に取り組み，ペアで商や筆算の手順を確認する。</p> <p>ペアで問題づくりに取り組み理解を深める。</p>	<p><エ - ></p> <p>除数が2位 数の筆算の 仕方を理解 する。</p>	<p>プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> 商の見当づけを基に，商を正しい位置に立て，正しい手順で筆算をしている。 	<p>商の位置や筆算の手順を確かめるためのためのチェック項目を示したプリントを準備する。</p>
5	<p>既習の商の見当の仕方では商が大きくなってしまいう筆算について，筆算で商を見つける活動を通して，見当づけた商が大きい場合は1減らした商に修正する方法を見つけ，その筆算ができるようにする。</p>	<p>問題を理解し，立式する。</p> <p>前時の考えを使って，商の見当づけをし，商を修正する必要があることに気付く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">見当づけた商を修正し，正しい商を見つけよう。</div> <p>商を修正し，正しい商を見つける。</p> <p>見当づけた商が大きすぎた時は1小さい商にすることや，小さすぎた時は1大きい商にすると修正の仕方をまとめる。</p> <p>類題に取り組み。</p> <p>ペアで練習問題や問題づくりに取り組む。</p>	<p><ウ - ></p> <p>見積もりによる仮商を立てたり，修正したりして，除数が2位数の筆算ができる。</p>	<p>プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> 見積もりによる商が大きい場合は，商を修正するとよいことを見つけ，修正の仕方を理解し，正しく修正している。 	<p>商の見当づけまでを全体で行い，見当づけた商のままでは正しくないことを確認し，学習を焦点化する。</p> <p>類題では，商の修正が必要かどうか，修正する時は大きくするのか，小さくするのかを考えさせる。</p>
6	<p>何十÷何十で暗算で商を求める問題や，商の見積もりや商の修正を確認する問題，除法の適用題に取り組み，既習内容を確認することができる。</p>	<p>$260 \div 60 = 4 \dots 2$を示し，間違いを見つけ正しい余りを考える問題に取り組む。</p> <p>$60 \div 20$など，暗算して商を求める問題に取り組む。</p> <p>$52 \div 26, 426 \div 68$など，筆算で商を求める問題に取り組む。</p>	<p><イ - ></p> <p>既習の除法を基に，除数が2位数の計算の仕方を考えることができる。</p> <p><ウ - ></p> <p>除数が何十で商が1位数の暗算ができる。</p> <p><ウ - ></p> <p>見積もりによる仮商を立てたり，修正したりして，除数が2位数の</p>	<p>ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> 10がいくつかの考えから余りを正しく考えている。 <p>ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> 10がいくつかの考えで，暗算している。 <p>ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しく筆算している。 	<p>個別指導により，余りを正しくとらえているかを確認する。</p> <p>個別指導により，10がいくつかの考えで計算していることを確認する。</p> <p>個別指導により，商の修正の仕方を確認する。</p>

		<p>「182まいの色紙を，クラス26人で同じ数ずつ分けたいと思います。1人に何まいずつ分ければよいでしょう。」など，除法の適用題に取り組む。</p>	<p>筆算ができる。 <エ - > 除数が2位数の除法について，それがどのような場合でどのように用いられるかを理解する。</p>	<p>ノート ・正しく立式している。</p>	<p>個別指導により，正しく立式しているかを確認する。</p>
7 本 時	<p>3位数÷2位数で商が2位数になる除法について，3位数÷1位数で商が2位数の計算の仕方を基に，「10が55個あり，それを24で分けた2は，10が2個という意味なので，商の2は十の位に立つ」ことを見つけ，商の立つ位置のきまりを考慮することができる。</p>	<p>問題を理解し，立式し，既習の計算との違いを見つけ，商が立つ位置が変わるという見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1けたより大きくなる商の見つけ方を考えよう。</p> </div> <p>10が55あることから，まず $55 \div 24$ を考えて十の位に商を立てるとよいことを見つけ，商を求めろ。 見つけた方法を発表し合い，商が2位数になる場合の筆算の仕方をまとめる。</p> <p>ペアで練習問題に取り組みさらにペアで問題づくりに取り組む。</p>	<p><イ - > 既習の除法を基に，除数が2位数の除法の計算の仕方を考えることができる。</p>	<p>ノート ・10が55あり，それを24に分けると10が2つずつ分けられることを基に，商が十の位に立つわけをはっきりさせている。</p>	<p>商がいくつになりそうかを考えさせ，商が1位数ではないことを全体で確認し課題づくりにつなげる。</p> <p>数の操作にならないよう，図や式と筆算とをつなげさせたり，商が1位数や2位数になる時のきまりを考えさせ，個々の考えを深める。</p>
8	<p>3位数÷2位数の除法について，前時の筆算の仕方を使って，筆算することができる。</p>	<p>問題を理解し，立式する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>前時に見つけた考えを使って，位に気をつけて筆算で商を求めよう。</p> </div> <p>一の位が0になる場合や，商を立てた後も3位数の数が残っている場合の筆算に取り組む。 一の位が0になる場合や，商を立てた後も3位数の数が残っている場合があることをまとめ，類題に取り組む。 筆算の練習問題に取り組む。</p>	<p><ア - > 既習の除法を基に，除数が2位数の計算の仕方を進んで身に付けようとする。</p> <p><ウ - ></p>	<p>ノート ・既習の内容を使って問題に意欲的に取り組み，筆算の仕方を身に付けようとしている。</p>	<p>掲示物や前時の計算を確認することで，既習の内容を使うとできそうだという見通しと意欲をもたせる。</p> <p>いろいろな場合</p>

			見積もりによる仮商を立てたり、修正したりして、除数が2位数の筆算ができる。	・一の位が0になる場合や、商を立てた後も3位数の数が残っている場合の計算が正しくできている。	についての類題を準備し、定着を図る。
9	商が2位数になる筆算や、除法の適用題に取り組み、既習内容を確認することができる。	被除数の十の位を空白にしておき、商が一位数になる場合にあってはまる数を考える問題に取り組む。 580 ÷ 24 など、商が2位数の筆算練習に取り組む。 「544 このどんぐりを、クラスの32人で同じ数ずつ分けたいと思います。1人に何こずつ分けたらよいでしょう。」など、除法の適用題に取り組む。	<イ - > 既習の除法を基に、除数が2位数の除法の計算の仕方考えることができる。 <ウ - > 見積もりによる仮商を立てたり、修正したりして、除数が2位数の筆算ができる。 <エ - > 除数が2位数の除法について、それがどのような場合でどのように用いられるかを理解する。	ノ - ト ・除数と被除数の大きさを比較して、商が1位数になっているを見つけている。 ノ - ト ・商の立つ位置に注意して、正しく筆算している。 ノート ・正しく立式し、答えを求めている。	個別指導でつまずきのある児童には既習内容を振り返るように働きかける。 個別指導で、商を正しい位置に立てているかを確認する。 個別指導で、立式のわけを確認する。
10	6 ÷ 2, 60 ÷ 20, 600 ÷ 200 がどれも3になることをお金の操作を通して見つけ、除法では、被除数と除数に同じ数をかけても、同じ	6 ÷ 2, 60 ÷ 20, 600 ÷ 200 の計算を行い、どれも3になることから、除数と被除数に同じ数をかけても、同じ数で割っても、商は変わらないという除法の性質を理解する。 わり算の性質を使い、80 ÷ 20 と答えが同じになるわり算を作ってみよう。 除法の性質から、除数と被除数	<エ - > 除数と被除数の両方に同じ数をかけても、同じ数で割っても、商は変わらないという除法の性質を理解する。 <ア - >	発言, ノ - ト ・答えがどれも3になる3つの式に着目し、除法の性質を見つけている。 ノ - ト, ペ	商がどれも3になることや、10をかけた数、10で割った数(または100)に気付きやすくするために、お金を使って問題を提示する。 いろいろな式を

	<p>数で割っても商が同じになるという性質が分かる。</p>	<p>に同じ数をかけたり，同じ数で割ったりして，$80 \div 20$と答えが同じになる式を作り，発表し合う。 ペアで除法の性質を確かめるわり算カルタをする。 練習問題に取り組む。</p>	<p>除数の性質を進んで計算に生かそうとする。</p>	<p>アのわり算カルタの学習活動 ・除法の性質を使って，意欲的に，同じ答えになる式を作っている。</p>	<p>見つけようとする姿勢を価値付け，除法の性質を積極的に使おうという姿勢につなげる。</p>
11	<p>$6500 \div 250$について，前時に見つけた性質を使って工夫して商を求めている3人の考えを理解することで，性質を活用して計算を工夫したり，性質を活用して計算したりすることができる。</p>	<p>$6500 \div 250$の計算について，除法の性質を使って考えた3人の計算方法から，課題を作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3人の計算は合っているのかどうか，わり算の性質を使って考えよう。</p> </div> <p>同じ数で割っても商は変わらないという除法の性質を使っていることを見つける。 除法の性質を使って工夫して計算することで，大きな数の計算でも，小さな数の計算にすることができることをまとめ，除法の性質の便利さに気付く。</p> <p>類題に取り組み，工夫して商を求める。</p>	<p><イ - > 除法に関して成り立つ性質を用いて効率的に大きな数の計算をするための工夫をすることができる。</p> <p><ウ - > 除数と被除数の両方に同じ数をかけても，同じ数で割っても商は変わらないという除法の性質を使って計算することができる。</p>	<p>ノ - ト ・3人がどんな性質を使ったかを見つけている。 ・除法の性質を使って工夫している。</p> <p>ノ - ト ・3人の考えについて，性質を使って計算し，工夫を見つけている。 ・除法の性質を使って，工夫して計算している。</p>	<p>除法の性質を掲示しておき利用させる。 多様な工夫が考えられることを助言する。</p> <p>個別指導で，正しく計算できているか確認する。</p>
12	<p>桁数の多い除法について，電卓を使って計算することができ，さらに，商を概数で表すことができる。</p>	<p>問題を理解し，立式する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>けた数が大きいわり算を，電卓で求めよう。</p> </div> <p>商を電卓で求め，概数で表す練習をする。 適用題に取り組み，電卓の使い方や概数で表す仕方の理解を深</p>	<p><ウ - > けた数の大きい計算が，電卓を使っ</p>	<p>ノ - ト ・適用題や，計算問題で電卓を使っ</p>	<p>電卓を使った計算に慣れさせるため，適用題や計算問題に多く</p>

		める。 ペアで問題を出し合ったり、わり算カルタに取り組んだりする。	てできる。	て正しく計算している。	取り組ませる。
13	計算問題や電卓を使った問題に取り組み、既習内容を確認することができる。	60 ÷ 30 などにより、暗算の練習問題に取り組む。 78 ÷ 13 などにより、筆算の練習問題に取り組む。 除法の性質を使って $7500 \div 250$ を工夫して計算する問題に取り組む。 電卓の計算練習に取り組む。	<エ - > 除数が2位数の筆算の仕方を理解する。 <イ - > 除法に関して成り立つ性質を用いて効率的に大きな数の計算をするための工夫を考慮することができる。 <ウ - > けた数の大きい計算が、電卓を使ってできる。	ノ - ト ・既習内容を想起し、暗算や筆算の仕方を正しく理解し、計算している。 ノ - ト ・除法の性質を使って、計算方法を工夫している。 ノ - ト ・電卓を使って正しく計算している。	個別指導により、個々の理解を確認し、教科書問題ができた児童にはドリル学習に取り組ませる。 個別指導により、いろいろな計算の工夫を考えさせる。 電卓を使った計算に慣れさせるため、適用題や計算問題に多く取り組ませる。
14	評価問題に取り組み、単元を通して学習した内容を確認することができる。	除数が2位数の筆算の仕方についての問題に取り組む。 除法の性質についての問題に取り組む。	ア以外の評価規準について確かめる。	テスト ・既習内容を使い、問題を正しく解決している。	学習診断表を用いてつまずきの指導を行う。

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

- ・ 3位数÷2位数で商が2位数になる除法について、3位数÷1位数で商が2位数の計算の仕方を基に、「10が55個あり、それを24で分けた2は、10が2個という意味なので、商の2は十の位に立つ」ことを見つけ、商の立つ位置のきまりを考えることができる。

(2) 本時の位置

7 / 14時

(3) 展開案

過程	学習活動	評価について	指導・援助		
つかむ	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">色紙が552まいを24人で同じ数ずつ分けると、1人何まいになるでしょう。</p> <p>問題を理解し、立式する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ数ずつ分けて1人分を求めるからわり算になる。 ・ 式は、$552 \div 24$になる。 <p>商の見当を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $550 \div 20$と見て見当を立てようとしたけれど、今までのように商は1位数にならないよ。 	<p>既習内容を用いて商の見当づけを考え、商が1位数にならないことが既習との違いであることを見つけることができる。</p> <p>[発言]</p>	<p>商が1けたより大きくなるのは本単元では初めてであるが、わり算(1)で学習していることを補助発問で確認する。そして、その商の見つけ方を想起させるために、掲示物を示す。</p>		
追究する	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">1けたより大きくなる商の見つけ方を考えよう。</p> <p>$552 \div 24$の商の見つけ方を考え、ノートにまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <table style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">$\begin{array}{r} 23 \\ 24 \overline{) 552} \\ \underline{48} \\ 72 \\ \underline{72} \\ 0 \end{array}$</td> <td> <p>が55こだから、$55 \div 24 = 2 \dots 7$この2は、2こだから、十の位に立つ。1が72だから、$72 \div 24 = 3$商は23</p> </td> </tr> </table> </div>	$\begin{array}{r} 23 \\ 24 \overline{) 552} \\ \underline{48} \\ 72 \\ \underline{72} \\ 0 \end{array}$	<p>が55こだから、$55 \div 24 = 2 \dots 7$この2は、2こだから、十の位に立つ。1が72だから、$72 \div 24 = 3$商は23</p>	<p><イ - > 既習の除法を基に、除数が2位数の計算の仕方を考えることができる。</p> <p>[ノート]</p>	<p>個別指導では、個々の考えを深めさせるために次の指導・援助をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形式的に筆算をしている児童には、十の位に商が立つわけを考えさせる。 ・ 考えがはっきりしている児童には、商が1位数、2位数になる時のきまりを考えさせる。
$\begin{array}{r} 23 \\ 24 \overline{) 552} \\ \underline{48} \\ 72 \\ \underline{72} \\ 0 \end{array}$	<p>が55こだから、$55 \div 24 = 2 \dots 7$この2は、2こだから、十の位に立つ。1が72だから、$72 \div 24 = 3$商は23</p>				
まとめる	<p>$552 \div 24$の商の見つけ方を発表し合い、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ が55個あって、24より大きいから、十の位に商が立つ。 ・ 10がいくつで考えた時に、割る数より小さくなると商は1位数、大きくなると商は2位数になる。 <p>フラッシュカードを使って、まとめたことをもとに、商が何位数になるかを考え、判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「$443 \div 12$」 44は12より大きいから商は2位数だ。類題を解き、ペアで答えを確かめ合う。 ・ 商が1位数・2位数になるかを見つめる問題に取り組み、ペアで答え合わせをする。 	<p>商が2位数になる時のきまりを考える。</p> <p>[発言]</p> <p>商が1位数になるのか、2位数になるのかを根拠をはっきりさせて、判断することができる。</p> <p>[発言]</p> <p>商が立つ位置を正しく判断することができる。</p> <p>[ペア学習の様子、プリント]</p>	<p>がいくつかの考えと筆算の手順をつないで、考えを確かめる。商が何位数になるかのきまりを見つけた児童に意図的に指名し、考えを広める。</p> <p>フラッシュカードの練習は、考えの根拠の確認や、意図的指名をして、定着を図る。</p> <p>どの子にもできた喜びを味わわせることができるようにするために、多くの問題に取り組みせたり、ペア学習に取り組みせたりする。</p>		

5 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

イ -
既習の除法を基に、除数が2位数の計算の仕方を考えることができる。

(2) 評価の実際

評価の方法

ノート
552の中には10のまとまりが55個あり、それを24個に分けると10が2つずつ分けられることを基に、商が十の位に立つわけをはっきりさせている。

判断の事例

「十分満足できる」状況(A)と判断した事例

552÷24の商が十の位から立つことを見つける中で、10のまとまりがいくつとみたときに、その数が除数より大きい場合は商が2位数になり、除数より小さい場合には商が1位数になることを見つけている姿

「おおむね満足できる」状況(B)と判断した事例

55÷24だから十の位に2が立つということを図や既習内容を使って明らかにし、ノートに考えをまとめて商を求めている姿

(3) 個に応じた指導の実際

つまずきの例とその要因

つまずき：ア) 55÷24を考えることができない。

イ) 55÷24, 72÷24の商の見当がつかず、商が分からない。

ウ) 55÷24=2...7ができて、十の位に商が立てられない。

要 因：ア) 552の中で、まず55に着目するとよいことが分からない。

イ) 55÷24を50÷20と見たり、72÷24を70÷20とみたりして
て商の見当をつける既習の計算の仕方が身に付いていない。

ウ) 55÷24が10のまとまりをみた計算であることを理解していないため、
商の2が10の束2個、7が10の束7個を示しているのとらえることができず、
商の立つ位置が分からない。

指導の手だて

ア) わり算(1)の商が2位数になった時の商の見つけ方を想起させる。さらに迷う児童には、一の位を隠すカードを示し、55に着目させる。

イ) 掲示物やノートを振り返らせ、何十÷何十の考えを想起させる。さらに迷う児童には、具体的に、50÷20といった既習の計算を想起させ、気付かせる。

ウ) 55は何の数かを考えさせ、10が55個であることに気付かせる。そのことから、2は、10が2個のことだと気付かせ、十の位に2が立つことにつなげる。

児童(生徒)の変容

ア) わり算(1)の学習を想起したり、一の位の数を隠したりして、55から見ていくとよいことに気付いて商を立てることができた。

イ) 既習内容を想起し、55÷24を、50÷20、5÷2と考えて見当づけることができた。

ウ) 55÷24から見当づけた2は、20のことであることから、十の位に立つことに気付くことができた。

10 わり算(2)	名前	点数
-----------	----	----

1, 商はどの位から立ちますか。ア~ウの記号で答えましょう。(知識・理解)

$$23 \overline{) 138}$$

$$65 \overline{) 912}$$

2, 計算をしましょう。(表現・処理)

$$90 \div 30$$

$$360 \div 40$$

$$810 \div 90$$

$$31 \overline{) 93}$$

$$36 \overline{) 252}$$

$$24 \overline{) 552}$$

$$26 \overline{) 538}$$

$$27 \overline{) 863}$$

3, $9000 \div 250$ をくふうして計算してみましょう。(数学的な考え方)

4, みかんが84こあります。このみかんをひとつふくろに12こずつつめると、何ふくろできますか。(数学的な考え方, 知識・理解, 表現・処理)

式

計算コーナー

答え ふくろ

5, えんぴつが370本あります。40本入りの箱につめることにします。何箱できて、何本あまるでしょう。(数学的な考え方, 知識・理解, 表現・処理)

式

答え 箱
 あまり 本

6, 花子さんは、次の計算をしましたが、まちがっているところがあります。どこでまちがえたのか、花子さんにおしえてあげましょう。(数学的な考え方)

花子さんの考え

$$68 \overline{) 411}$$

$$\underline{340}$$

$$71$$

どこでまちがえたのか、花子さんにおしえてあげよう。

正しい計算の仕方

評価問題構成表

単元名「わり算(2)」

4年 組 氏名()

番号		評価問題のねらい	観 点		
大問	中問		数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
1	(1)	・商が立つ位置を理解している。			
	(2)	・商が立つ位置を理解している。			
2	(1)	・わる数が何十で商がひとけたの暗算ができる。			
	(2)	・わる数が何十で商がひとけたの暗算ができる。			
	(3)	・わる数が何十で商がひとけたの暗算ができる。			
	(4)	・わる数が2けたの筆算ができる。			
	(5)	・わる数が2けたの筆算ができる。			
	(6)	・わる数が2けたの筆算ができる。			
	(7)	・わる数が2けたの筆算ができる。			
	(8)	・わる数が2けたの筆算ができる。			
3		・わり算の性質を使って計算の仕方を考えることができる。			
4	式	・わる数が2けたのわり算の式を考えることができる。			
	計算	・わる数が2けたの筆算ができる。			
	答え	・答えの表し方を理解している。			
5	式	・わる数が2けたのわり算の式を考えることができる。			
	計算	・わる数が2けたの筆算ができる。			
	答え	・答えの表し方を理解している。			
6		・わり算の筆算のまちがいを見つけ、そのわけを考えることができる。			
観点ごとの合計			/4	/10	/6